

令和 元 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目 1	学校教育目標の設定・共有	
現 状	昨年度の自己評価はB（78.6%）であった。	
評価指標	全教職員が学校教育目標を共通理解し、その達成に向けて努力する。	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員と生徒との信頼関係確立。 ・規律と秩序の遵守。 ・全ての生徒の希望進路の実現。 	
実際の取り組み状況	「全体方針・ビジョン」及び各分掌の「具体的目標」にしたがって、定期的な検証と改善の計画実施を促した。	
自己評価	B (78.7%)	[反省・意見] ・全体方針を「わかりきったこと」として再確認していない。始業式、後期始業式などで確認すべき。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者評価	B	[意見・提言] 全教職員一丸となってがんばってほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	B	[意見・提言] 全体として見れば目標はほぼ達成しているように思われるが、前向きに取り組む職員とそうでない職員の温度差が感じられる。今後想定される教育現場の環境変化への対応を教職員全体で意識することが求められる。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	定例職員会議で目標の再確認を行うなどの対策をとりたい。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

A 達成した ア、イの合計が85%以上

B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満

C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満

D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

令和 元 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目 2	組織の充実・校務分掌の明確化	
現 状	昨年度の自己評価はB（76.6%）であった。	
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標や重点目標を達成するため、各分掌の役割や取り組み内容を明確にする。 ・組織的に連携するため、自己の職務の検証と他の分掌への提案を行う。 	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌の円滑な連携。 ・常に改善を念頭にして業務を行う。 	
実際の取り組み状況	各分掌間で協力して業務を行った。	
自己評価	B (75.5%)	[反省・意見] ・%は微減。組織的な業務は概ね良好。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者 評価	B	[意見・提言] パーセンテージが横ばいなので一定の成果は出ていると考えられる。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	B	[意見・提言] 他の分掌の活動を理解し協力する雰囲気の醸成が組織力のアップにつながると思われる。分掌ごとの目標・活動を明確にし、学校全体で共有することをより進めてほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	情報共有、連絡、申し送りを徹底させ、自己評価を上げたい。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した** ア、イの合計が85%以上
B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

令和 元 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書

評価項目 3	学年・学級運営の充実	
現 状	昨年度の自己評価はA（92.1%）であった。	
評価指標	学年団は、教育目標や重点目標を把握し、生徒の居場所となる学校や学級づくりに努力している。	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に学年情報交換会を行う。 ・定期的に学年集会を行う。 ・定期的に大掃除を行い、校内の美化に努めている。 ・2者面談、3者面談を1年にそれぞれ最低1回行う。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記の項目について、定期的な検証と改善をはかった。	
自己評価	A (89.3%)	[反省・意見] ・自己評価Aは達成できた。%を下げないようにさらに充実させたい。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者 評価	A	[意見・提言] 生徒が生き生き学校生活を送っているのが感じられる。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	A	[意見・提言] 昨年度よりやや達成度が下がっているが、概ね良好と思われる。特に高等学校は全体的に子どもとの関係が安定している様子がうかがえる。 現状に満足せず、今後もよりきめ細かく、質の高い学年・学級運営を目指してほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	各学年団が会議時間を持てるような時間割の工夫を今後も続けたい。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる **イ** ややあてはまる **ウ** あまりあてはまらない **エ** 全くあてはまらない

- A** 達成した ア、イの合計が85%以上
- B** ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
- C** 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
- D** 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

令和 元 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目 4	教育課程の円滑な推進	
現 状	昨年度の自己評価はB（80.8%）であった。	
評価指標	各コースごとに特色ある教育課程の編成に努めている。	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業交換のしやすい時間割を組み、自習を前年より5%減ずる ・クラス分けを工夫し、効果的な時間割編成をする。 ・生徒の現状を考慮し、各コースの見直しを行う。 ・進系はセンター試験を、総進系は推薦入試を目標とした効果的なカリキュラムが組まれている。 ・中学校は中高一貫教育の効果的なカリキュラムが組まれている。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記の項目について、定期的な検証と改善をはかった。	
自己評価	A (85.0%)	[反省・意見] ・新教育課程を見据えた取り組みが必要。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者評価	A	[意見・提言] 様々な新しい試みに取り組んでほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	B	[意見・提言] 教育課程を変えることの必要性は意識されているが、具体的な対応はまだ不十分に思われる。職員一人ひとりの課題ととらえ、学年・教科で新しい教育課程をどのように実現するか考えてほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的、対話的で深い学び」を促すカリキュラム編成。 	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した ア、イの合計が85%以上**
B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

令和 元 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目 5	教科指導の充実	
現 状	昨年度の自己評価はB（81.6%）であった。	
評価指標	生徒の実態を踏まえた学習指導方法の工夫・検証・改善が行われている。	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートの結果を年に2回、各科で検討し、その都度改善策を検討する。 ・英検、漢検の目標合格率を定めてクリアする。 ・計画的に宿題・課題を出し、家庭学習の習慣が定着するように工夫する。 ・授業改善、アクティブラーニングの積極的導入。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記の項目について、定期的な検証と改善をはかった。	
自己評価	B (82.0%)	[反省・意見] ・各教員がアクティブラーニングに積極的に取り組んだ。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者評価	A	[意見・提言] 高いパーセンテージで推移しており、努力が認められる。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	B	[意見・提言] アクティブラーニング、ICT活用等の新しい学習スタイルへの取り組みの意識は高まっている。今後、取り組みの結果が子どもたちにどのような力をつけたのかの検証を進めてほしい。また、急激に進む一人一台のPC環境にどのように対応していくかを喫緊の課題として取り組むことが求められる。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	授業改善のさらなる推進。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

A 達成した ア、イの合計が85%以上

B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満

C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満

D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

令和 元 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目 6	生徒指導の充実	
現 状	昨年度の自己評価はA（85.5%）であった。	
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が共通理解のもとに統一的な生徒指導を行っている。 ・情報交換が常になされ、全教職員が問題を共有している。 	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者数1日10以下、整容違反0。 ・拶指、入室指導の徹底。 ・いじめ早期発見、早期指導、早期解決。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り 組み状況	上記項目について、定期的な検証と改善をはかった。	
自己評価	A (85.7%)	[反省・意見] ・「いじめ」防止対策について早期かつ組織的に対応できた。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者 評価	A	[意見・提言] 生徒が満足できる学校生活を目指してほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	A	[意見・提言] いじめについて組織的に対応がされなど、生徒指導は概ねうまく機能しているようである。その一方で、中学校では気になる生徒への対応について、一部の生徒の理解が得られていないように見える。誰もが納得できる生徒指導を目指してほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向 けての課題	素早く、きめ細かい対応を心がけたい。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる **イ** ややあてはまる **ウ** あまりあてはまらない **エ** 全くあてはまらない

- A** 達成した ア、イの合計が85%以上
- B** ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
- C** 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
- D** 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

令和 元 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目 7	進路指導の充実	
現 状	昨年度の自己評価はB（83.3%）であった。	
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導を向上させるため、朝学習や家庭学習の習慣の定着をはかる。 ・放課後講習を実施し、模試の分析などによって現役合格率を上げる。 	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の大学進学満足度80%以上。 ・卒業生の専門学校進学満足度80%以上。 ・卒業生の就職満足度80%以上。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記の項目について、定期的な検証と改善をはかった。	
自己評価	B (78.6%)	[反省・意見] ・卒業生の満足度は高かった（80%以上）が、もう一伸びさせられるはずの一群が惜しい。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者評価	A	[意見・提言] 非常によい評判を聞いている。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	B	[意見・提言] 生徒自身の満足度や学習時間の自己評価に対して、実際の学習量が少ないようである。進路に対するモチベーションを高め、学習に対する適度なストレスを与えることで学びに向かうエネルギーを高めることが必要と思われる。学校全体の課題として意識してほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	大学入試新制度の研究	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

A 達成した ア、イの合計が85%以上

B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満

C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満

D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

令和 元 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目 8	家庭・地域との連携の推進	
現 状	昨年度の自己評価はB（82.3%）であった。	
評価指標	日頃から保護者との連携を強め、学年通信、ホームページ等により、適切な学校の情報を提供する。	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・学年通信を年間10回以上発行する。 ・近隣中学校へ年2回以上訪問する。 ・文化祭の参観数が前回を超える。 ・オープンスクールの参加者数が前回を超える。 ・PTA総会の出席者数を把握する。 ・学校ホームページを充実させるとともに、印刷物等で学校情報を公開する。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記項目について、定期的な検証と改善をはかった。	
自己評価	A (86.7%)	[反省・意見] ・全項目について目標が達成できた。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者評価	A	[意見・提言] PTAも協力的である。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	A	[意見・提言] 地域や家庭への情報発信にきちんと取り組んでいることは評価できる。今後、取り組みの結果をどう評価して次の取り組みにつなげるかというPDCAのサイクルを意識することが求められる。何をやるかではなく、やった結果どうなったのかを指標としてほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	オープンスクールの内容、スケジュールの企画再検討。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる **イ** ややあてはまる **ウ** あまりあてはまらない **エ** 全くあてはまらない

- A** 達成した ア、イの合計が85%以上
- B** ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
- C** 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
- D** 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

令和 元 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目 9	省エネルギーの実行	
現 状	昨年度の自己評価はA（96.3%）であった。	
評価指標	光熱水費や用紙等の無駄を省き、省エネやリサイクルに取り組んでいる。	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・光熱費、暖房費を前年より減ずる。 ・分別回収を徹底する。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記項目について、定期的な検証と改善をはかった。 事務室に電力消費の表を掲示し「見える化」をはかった。	
自己評価	A (95.0%)	[反省・意見] ・各家庭でも常識になりつつあるためか、安定して好スコアである。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者評価	A	[意見・提言] 高水準で維持できている。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	A	[意見・提言] 省エネを意識した行動が高い水準で維持できていることは評価できる。昨年も指摘したが、生徒が省エネに対してどのように意識し行動したかを評価指標として組み込むことを望みたい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	省エネの徹底。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した ア、イの合計が85%以上
- B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
- C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
- D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

令和 元 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目 10	特別指導の充実 (中学校)	
現 状	昨年度の自己評価はA (86.2%) であった。	
評価指標	様々な体験活動や特色ある活動等が活発に行われている。	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動・職場訪問・ボランティア活動を各定期考査終了直後に実施する。 ・講演会を随時催す。 以上の項目につき、ア、イ (下記自己評価の基準を参照) の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り 組み状況	上記項目について、定期的な検証と改善をはかった。	
自己評価	A (97.3%)	[反省・意見] ・活動の楽しさとともに、その効果が期待される。
評価基準	A : 達成した B : ほぼ達成した C : 現状維持にとどまった D : 現状より悪くなった	
学校関係者 評価	A	[意見・提言] 高校進学後も学校のリーダー的存在になってほしい。
評価基準	A : 達成したと認められる B : ほぼ達成したと認められる C : 現状維持であると認められる D : 現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	A	[意見・提言] 体験活動等がきちんと実施されていることは評価できる。自己評価にもあるように、それが生徒の学校生活にどのような変容を持たしているのかをきちんと検証し、今後の活動に活かしてほしい。
評価基準	A : 達成したと認められる B : ほぼ達成したと認められる C : 現状維持であると認められる D : 現状より悪くなったと認められる	
次年度に向 けての課題	家庭との緊密な連携を図りたい。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した ア、イの合計が85%以上**
- B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満**
- C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満**
- D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満**

- ・自己評価は全教職員による。
- ・学校関係者評価は、PTA役員(保護者)、学校評議員、学識経験者等、本校関係者による。
- ・第三者評価は、教育コンサルタント 大西 貞憲 氏による。